

学びの仲間の皆さんに次の4項目についてアンケートをお願いしました。

- 「1. 田池先生に出会われたのはいつ?」、「2. この学びに集われた動機は?」、「3. 田池先生(この学び)に出会う前の自分の人生について」、「4. 田池先生(この学び)に出会って何が変わりましたか?」

1986年(昭和61年)3月頃に出会われた〇〇さん

1	昭和61年3月
2	当時身体の具合が悪くこの病院に行っても原因が分からず、他力丸出しで出来ることなら先生に治してもらいたかった。
3	いつも自分が正しくて自分の思いをまわりに押し付けているのだけど、なぜか空回り、何かあるといつも人のせいにしていたと思う。
4	「自分の心を見る」初めて聞く言葉でした。人のせいにしては何も変わらない、相手を変えるのではなく自分が変わる。相手の言動だけでなくいつも自分の思いを確認し認める。すごい学びと思いました。難しいけど楽に生きていけると思いました。

1986年(昭和61年)9月15日に出会われた〇〇さん

1	1986年9月15日
2	不安な思いを何とかして欲しいと思いました。
3	何をやってもうまくいかないないので、他の宗教に入信したり、精神世界の本をたくさん読みましたが、なにも変わらず、人間関係で苦しいことが続きました。また、肉の自分を素晴らしくしたいとも思っていました。
4	肉の出来事に一喜一憂する思いや、自分の面目を気にすることが少なくなってきました。

1986年(昭和61年)12月11日に出会われた〇〇さん

1	64年ごろかな、友達に誘われて東京のKさんの自宅かなと思います。
2	自分の出す思いが苦しい、小学生の頃から何でだろうと何故このような思いが出るのかきつと教えてくれる人が、本が、何かがあるだろうと思いつつ、何かを、探しながら生きていた。心から出る思い、表面を繕う思いの自分を嫌いまくってきた。自分が大嫌いだった。先生に出会って、「許せない人を許す学びです」と聞いた時、「探していたのはここだ」と思った。
3	幼い時から身体が弱く青春を迎えても健康面で厳しい日々を送っていた。いつも死と隣り合わせだった。結婚してからも、実家からずっと飲んでた薬を送ってもらっていた。ある時、薬を飲まなくてもどこも痛くない。「薬やめよう」と、やめた。そうして自分の出す思いと葛藤しながら、ある時期から勤め始め、十数年たった時、先生と出会った。
4	前向きな思考になりました。

1986年(昭和61年)9月頃?に出会われた〇〇さん

1	昭和61年、田池先生が東京で学びのお話をされると聞き、参加した時です。
2	以前から学びをしていた友人から田池先生のことや、学びに関する資料をもらっていましたが、最初は余り気乗りがしませんでした。しかし、父親の突然の死がきっかけで、死んだらどうなるのだろうという疑問が出て、お会いしたことのない田池先生に手紙を出しました。田池先生からお返事をいただき、東京で学びの機会があると知り、田池先生という方に会ってみたいと思いました。
3	子供の頃から本当の幸せってどんなだろうと思っていました。家族が仲良くすることが幸せなのか、それとも大人になってから思う幸せはちがうのか。きっと大人になったら分かんと思っていました。しかし、大人になったら益々本当の幸せがわからなかった。欲しい物を手にいれても好きな人と一緒になれても、それでも心の中で何か虚しさがふっと出てくる。心を満たすものを欲していました。
4	母親に対する思いが変わったことがうれしいです。母の反省を通して、私は正しい、私は間違っていない。母を恐怖し、母を見下げ、心を閉ざしてきました。そんな母に甘えることなんて出来なかった。母に使った思いを見ていくうちに、己の偉さと傲慢さがどれほど母を見下げてきたか素直でない自分の姿が見えてきました。うれしかったです。いま母を思うと母の懐に素直に入っていける、なんでも言える、甘えられる、母の肉はもうありませんが、そんな思いです。心を見る、学んで初めて知ったことです。すごいことでした。

1986年(昭和61年)頃に出会われた〇〇さん

1	小学3年生のころです。その日は、近所の家で田池先生が来られて勉強会が開かれる日でした。土曜日だったと思いますが、学校から帰る途中、家の近くで田池先生にばったりと会い、先生を指さして、「田池先生や~!!」と叫んだのを覚えています。先生はびっくりした顔をされて、「あんた、どこの子や?」と聞き返してくれました。記憶にある中では、それが初めての出会いです。
2	親が学びをしていたから。当時、中学校のクラスが大嫌いだったから。
3	まだ、中2だったけど、自分は「比較的良好人間」だと本気で思っていました。家庭にそれほど不満はなかったけれど、同じクラスの人間が大嫌いでした。自分は正しい、間違っているのはあいつらだと、見下していました。自分の殻の中に閉じこもっていたと思います。
4	闇出し現象の時、自分の出すブラックのエネルギーに振り回されて、本当にどうしようもない愚かさ、「よくこんなん、自分はいい人間だと本気で思っていたな。どれだけ自分を知らないんや」と、心の底から思いました。その時に初めて、自分は真っ暗闇、ブラックもブラック、大闇だと心で感じさせていただきました。

1986年(昭和61年)頃に出会われた〇〇さん

1	33年ぐらい前
2	子供のことで。
3	子育てに 仕事にとっても忙しくて、一体自分は何のために生まれてきたのかと疑問に思い、とても苦しかった。
4	子育てに 仕事にとっても忙しくて、一体自分は何のために生まれてきたのかと疑問に思い、とても苦しかった。

1986年(昭和61年)頃に出会われた〇〇さん

1	高校生のとき(16歳)
2	母が先に学びをしており、勉強会に誘われたことがきっかけで学び始めました。
3	真っ黒でした。苦しくて終わりのない迷路を彷徨っているような感じでした。いつも心の中に重たい岩のような塊を抱えていた覚えがあります。先生に初めて出会ったときは10代でしたが、生きていくことが本当に苦しかったし、人生が楽しい、うれしいなど一度も思ったことがない状態でした。自殺しようとか死のうと思わなかったのは、どうしても死んでも自分が消える気がしなかったからです。
4	田池先生が、初めて自分から進んで参加した勉強会で(Oさんのお宅でした)、「人は意識である、人は死んでもなくなるらない、永遠に存在し続けるものである」と明確に伝えてくれたことで、本当に救われました。やっと真実に出会えた本当にうれしかった。今でもこの感動は忘れられません。この体験があったから、紆余曲折ありながらも30年以上学びを続けられると思っています。私の宝物です。

1986年(昭和61年)頃に出会われた〇〇さん

1	昭和61年、18歳の時、近所の人に誘われて大阪の(誰かわからない)個人のお宅で話をされる時に行きました。
2	幼稚園(キリスト教系)、神社、寺などいろいろしたが、自分の思う通りの結果が得られず、もっと力のあることはないか(パワー)と探していた時に興味があって行きました。
3	肉の自分が努力して、後足らない分は、宗教(もしくは神、仏など)パワーでかなわないことはないと思っていたのに、かなわないことが多くて、それらのものに力がないのだと思い、何をしたらいいのか、(何を求めたらいいのか)探していました。自分が頂点にいたいことを望んでいた。
4	出会ってなければ、自分のエネルギーで自分を壊して、周りの人を敬うかのような言葉を言いながら、実は傲慢で、いろいろなものを壊し、自滅(病気が、自死か何かはわからないけど)生きていなかったと思う。自分のエネルギーのすごさの自覚はなかったが、自分のエネルギーは自分でわかっていくものだと思う。

1986年(昭和61年)頃に出会われた〇〇さん

1	昭和61年頃
2	叔母の勧めによりまず母が学び、私も勧められて何となく顔を出してみようかという程度で学びに参加しました。
3	中学生の時に父を亡くし、母ひとり、子ひとりの家庭環境の中で育ったので、我が家の生活を支えるのはこの私という気持ち強く、とにかく仕事をしてお金を稼がねばの毎日でした。ストレスがどんどん膨らむ一方、金稼ぎの楽しさ、同時に私の会社と我が家(2世帯同居のような構造)での存在感が増してくる心地良さと安堵感もあって、きっとこれが私の人生だろうなと思っていました。
4	先生との最初の出会いはまだセミナーという形がない時で、先生が東京で初めて我が家を会場にしてお話をされた時だったと思います。古い家の玄関の上り場で、先生は床に膝をついて、「田池です」と挨拶をされました。もちろん私も同様にご挨拶をしました。よく覚えています。先生はごく普通の人という印象でした。私は、先生との出会いから約10年間は学びよりも仕事を優先していました。その後の約20年間は熱心にセミナーには参加していますが、学んでいるかという????マークが付きまます。ただ、私の人生観は全く変わりました。それ迄とは全く真逆の人生観です。何がとは一言では言えません。全てです。田池先生に出会えたことは本当に凄いことだったと、今頃になってようやく心に響いてきます。